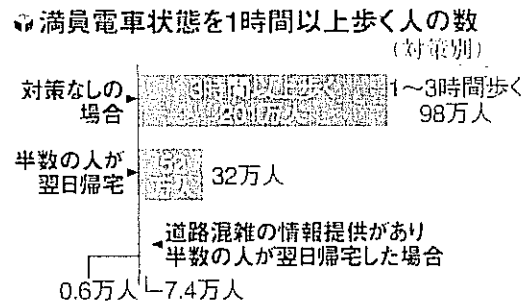


首都直下地震で交通ストップ



首都直下地震が発生すると、道路は帰宅者であふれ、475万人が満員電車のような混雑に巻き込まれるという試算を、政府の中央防災会議の専門調査会が2日まとめた。激しい混雑は、死傷者を伴う将棋倒し事故を招く恐れがある。帰宅時間をずらしたりすれば混雑を大幅に減らせる見込みで、同会議は道路沿いの建物の耐震化なども盛り込んだ対策指針を年度内に策定する。

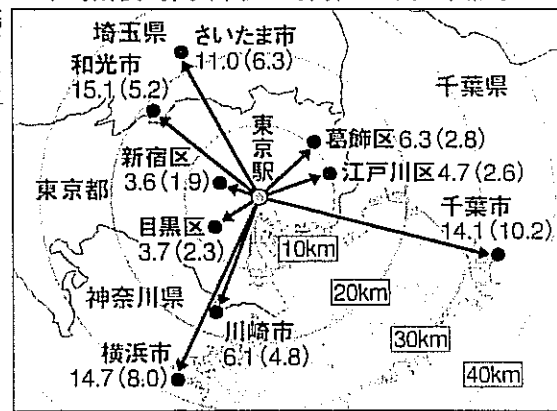
帰り道 満員電車並み 475万人

中央防災会議試算

東京駅から 新宿3.6時間 横浜は14時間も

試算は、東京湾北部を震源にマグニチュード7.3の地震が平日昼に起き、23区東部を中心に震度6強が観測され、電車やバスなどの公共交通機関がストップすると想定。昨年実施した災害時の行動意識調査も参考に、東京、埼玉、千葉、神奈川の1都3県と茨城県南部で、外出中の会社員や学生、買い物客ら1397万人がどう動くか計算した。消防車や救急車が車道を通るため、歩行者は歩道しか使えないと想定した。1平方メートルあたり6人以上の満員電車並みの場所を3時間以上歩く人が201万人発生。都区内にいる人の約3割がこうした混雑に巻き込まれる。10時間以上も36万人もいる。東京駅から、埼玉県和光市や横浜市、千葉県市川市に歩いて帰るのに普段の1.4~3.3倍の約15時間かかる。車道に歩行者があふれて消防車や救急車の活動を妨げたりする懸念もあるという。

◆東京駅周辺から周辺区市役所までの徒歩による平均所要時間(単位は時間、カッコ内は平常時)



ず、半数が翌日に帰宅する」という設定では、混雑した場所を通る人は475万人から229万人に、3時間以上歩く人は52万人に減った。さらに、「火災や建物崩壊がない」「道路混雑の情報提供がある」「家族の安否

情報をすぐに把握できる」という条件が整えば、混雑した場所を通る人は185万人に、3時間以上歩く人は6000人に激減。帰宅

の所要時間も通常とあまり変わらないと予測された。同会議は「地震直後に慌てて人が移動しないような体制づくりを企業や学校に求めていきたい。混雑の中、長時間歩くことで体調を崩す人が続出する恐れがあり、救護所の確保方法も検討していく」としている。

一方、「地震直後に動か